

1 学校教育目標

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎やる気いっぱい やさしさいっぱい やりとりいっぱい 中川東小 ○子供たちにとって大好きな学校、未来に亘って居場所となる学校 ○教師にとってやりがいをもって教育に邁進する学校 ○保護者や地域の方々にとって誇りに思う学校
○児童・生徒像	◎やさしく かしこく たくましい子 ○誰とでも仲良く分け隔てなく接する子 ○よく考え、すすんで学ぶ子 ○心身を鍛え、様々なことに挑戦する子
○教師像	◎子供たちを愛し、子供たちを伸ばし、教育への情熱を燃やす教師 ○常に子供の心の傍にいて、一人一人の子供のよさや可能性を最大限に伸ばす教師 ○「教師は授業が命」と授業づくりに熱心に取り組む教師 ○豊かな感性としなやかな対応力をもち、人間味あふれた教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

[学校の現状]

- 児童について 素直で優しい児童が多い。人とかかわる活動を楽しんで行うことができる。また、与えられた課題には一生懸命に取り組む姿が多く見られる。さらに、自ら課題を見つけ解決していく力を育てていきたい。
- 教師について 若手教員と若手を育てるベテラン教員とが共に「チーム中川東」として、児童の視点を大切にした教育活動を推進している。常に児童と共にある教師集団であり、「教師は授業が命」を合言葉に授業力向上に切磋琢磨している。
- 保護者・地域について 地域の温かさに包まれている学校である。「PTA」「開かれた学校づくり協議会」等を中心に、積極的に教育活動に協力いただいている。令和元年度の創立40周年記念事業の大成功が、学校・保護者・地域の一体感をより一層強くしている。

[前年度の成果と課題]

- 教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る。
校内研究・管理職による授業観察・教科指導専門員による訪問指導・教員同士の授業の見合い等を通して、常に授業をオープンにして授業研究に努めることで授業力向上が図られてきた。また、花丸教室（放課後補習教室）・そだち指導等では個に応じた指導を充実させた。区学力調査（目標通過率78.6%）の分析を行い、習熟できていない部分に特化して重点的に指導を徹底した。自学ノートの活用を働きかけ、調べる力・まとめる力等を伸ばすことができた。新しい文章を読み解く力は依然として課題。基礎基本の定着とともに「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努める。
- 児童が安心して学べる教育環境を整える。
コロナ禍であっても「一人一人を大切にする教育」により一層力を注いできた。制約のある中ではあったが、人とかかわる楽しさを存分に味わわせ

ることで本校の特色を発揮した。工夫を凝らして各学校行事を行い、児童の自己肯定感につなげることができた。いじめの早期発見・早期解決にも努め、いじめ解決率は100%である。年2回のHyperQ-U検査を活用し、より温かく高め合える集団づくりに努めた。創立43周年を迎える本校がいつまでも児童の居場所となるように、今後も教育活動を力強く推進する。創立40周年のレガシーを生かし、教育環境をさらに充実させていく。

○保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

常に保護者や地域と連携をとる必要性が高まり、学校メール（登録率100%達成）やホームページによる情報発信が質量ともに大幅に伸びた。PTA活動の替わりとしての登校見守りの旗振りもすっかり定着し、そこで生まれる会話からも信頼関係を築くことができた。保護者や地域とのコミュニケーションが深まり、心の通った連携が築かれつつあることを手ごたえとして感じている。忙しく働いている家庭が多い中、「共に育てていく」という土壌を耕し、保護者・地域と心をつなげた学校経営を行っていく。今年度は是非とも児童の生き生きと活動する姿をたくさんお見せしたい。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R2	R3	R4	R5	R6
1	学力向上アクションプラン～教員の授業力向上を通して、児童の学力向上を図る～	○	○	○	○	○
2	児童が安心して学べる教育環境を整える。	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。	○	○	○	○	○
4						

5 令和3年度の重点目標

重点的な取組事項－ 1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
児童の学力向上を図る。		令和４年度区学力調査 目標通過率 80%以上 2 月実施の定着度確認テスト で目標値を通過する対象児童 80%		区学力調査 目標通過率 84.9% 昨年度比 +6.3% 定着度確認テスト 目標通過率 82.3%		学力の伸びが見られる。下記取組を徹底して 継続してきた成果ととらえている。引き続き 基礎基本の定着を図りながら、さらなる活 用力の育成を目指した授業改善に励んでいく。		◎	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクション プラン	対象・ 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (＝数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●

改善	ICT 機器の活用	全学年 全教科	毎日 (家庭 学習も 含む。) 通年	ICT 機器を活用した主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を行う。 ・双方向型の一斉授業充実 ・リアルタイムの考え共有 ・調べ学習の充実 ・A I ドリルの活用 ・『ICT 活用実践事例集』第 2 弾の作成・活用	児童アンケート 教員アンケート タイピングテスト	・1 日 1 回タブレットを用いた授業を実施した教員 90% 以上 ・週 2~3 回の家庭への持ち帰り	1 日 1 回タブレットを用いた授業の実施率は 85% 毎週金曜日に全学年持ち帰り 欠席時の学びの提供	1 人 1 台端末の活用が飛躍的に進んだ。上の学年ほど活用度が高い。今後、リアルタイムに共有できるよさを授業で追究していけるとよい。	○
改善	校内研究による教員の授業力向上	全教員・ 全児童 国語算数 道徳	研究授業(6 回) 研究発表会(「開かれた学校づくり協議会」・近隣小学校へ)	学力向上に直結する教員の授業力向上を図る。 ・「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善 ・話し合い・交流で自分の考えを深める授業展開 ・児童の発表の場の設定 ・書く力の育成(全国学力)週 1 回 100 文字作文	児童アンケート 教員アンケート 全国学力調査 都・区学力調査	・R4 全国学力調査にて記述式無答率 0% ・区学力調査にて目標通過率 80% 以上	全国学力調査 平均正答率 57.9% 記述式無答率 5% 区学力調査 目標通過率 84.9% 昨年度比 +6.3%	主体的に粘り強く取り組む児童が増えた。意欲の向上が顕著。授業研究における話し合いや書く活動に力を入れたことが功を奏している。	◎
継続	読書環境の充実	全教員・ 全児童 国語 図書 総合	年 3 回の読書月間 通年	読書環境の充実を図り、本にすぐ手を伸ばす子を育てる。 ・国語関連図書の充実 ・「調べる学習コンクール」への応募 ・ビブリオバトルの実施 ・本の展示を中心に据えた教室環境	読書量調査 コンクールへの 応募数	・読書量調査で目標を達成する児童 90% 以上	読書月間 目標達成児童 昨年度比 +4.4% 「調べる学習コンクール」への応募数 194 点 入賞作品 5/7 点	本にすぐ手を伸ばす子が増えている。学校図書館・学級の図書環境が整ってきた。図書館支援員の力を最大限に活用できている。	◎
継続	家庭学習の徹底	全学年 全教科 主に国語 と算数 自主学習 (3 年生 以上)	毎日 キャン ペーン は 年 10 回	授業の充実・個に応じた指導・家庭学習の徹底は学力向上のトライアングル。より一層の家庭学習の徹底を図り、学力向上につなげる。 ・年 10 回の「家庭学習キャンペーン」の実施 ・自主学習の取り組み強化 児童・保護者の意識向上 ・自学ノートコンクール	宿題提出状況 調査 年 3 回 自学ノートの点 検・相互評価	・宿題提出率 100% ・自主学習提出率 90% ・学校評価アンケート 肯定的回答 90% 以上	宿題提出率 86.5% +2.5% 自主学習提出率 80.2% 学校評価アンケート 肯定的回答 85.1%	数値はほぼ横ばい。自主学習の機運は高まりつつあるが、全校的な底上げの必要あり。「自学コーナー」の設置は、保護者への周知に効果的であった。	◎

継続	花丸教室 (放課後 補習教室)	全学年 目標値を 達成して いない児 童 正答率 75%未満 国語と算 数	毎週 火・木曜 日 放 課 後 30 分間	一人一人のつまずきに応じ た個別指導を徹底し、苦手意 識の早期解消を図り学習意 欲を喚起する。 ・全教員による全校体制 ・教材は、プリント・ペーシ ックドリル・『論理エンジ ン』を使用 ・学力ポートフォリオによる 指導内容の精選	定着度確認テス ト(2月実施) 教員自己評価 アンケート	・定着度確認テ ストで目標値 を通過する 対象児童 80% ・教員自己評価 肯定的回答 85%以上	定着度確認テスト % 教員自己評価(肯定) 個別の課題 100% 分かるまで 88% 授業改善へ 77%	花丸教室と夏期補習 では、人数を絞り込 み個に応じた課題で 効果を上げた。『論理 エンジン』を教材と して活用。新しい文 章を読み解く力を鍛 えた。	○
継続	パワーアッ プタイム (朝学習)	全学年 国語算数	毎週 火・水曜 日 始 業 前 15 分間	反復練習により学習内容の 基礎基本の定着を図る。 ・一日の学習のリズミカルな スタートの習慣化 ・5分間で取り組める読解問 題中心の教材を活用 ・主に担任と副担任で行う。	毎回のドリルの 自己採点・記録	・毎回のドリル の正答率 85%以上	毎回のミニテスト等 各学級 80～100%	全校で共通教材を採 用していることはよ い。朝の時間の設定 内で継続して実施す ることに難しさが生 じていた。要改善。	○

重点的な取組事項－２		児童が安心して学べる教育環境を整える。				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
児童にとって安全・安心な学校生活を確立する。		学校評価アンケート「安全・安心に関する項目」：肯定的回答 90%以上	各項目 90%を超える肯定的評価 心を育てる 94% いじめ防止 89% 施設整備 92%		コロナから児童の命と学びを守ることを第一義に。一人一人の児童が輝く学校生活を提供できた。	◎
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度

子供の心を育てる 教育活動の充実	「生活指導・特別活動に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	・人権尊重教育の徹底 ・「人とかかわる活動」の意図的・組織的展開 ・縦割り班活動の充実 ・気持ちのよい挨拶の徹底	94%の高い肯定的評価 その内A評価が 68.6%と保護者から最も高い評価を得る。 人権月間における取組の充実 人権標語の作成・掲示・発表 命をテーマにした授業	制約のある中でも、工夫を凝らし教育活動を展開。特に「人とかかわる活動」を重視する方向性が成果を上げ、共感も得たと考える。	◎
いじめのない学校生活の充実	いじめ解決率 100%	・いじめを許さない校風醸成 ・いじめの起こらない学年・学級経営 ・HyperQ-U 検査の活用 (年2回) ・早期発見・早期解決	89%の肯定的評価 いじめ解決率 100% いじめ相談箱活用件数 0 件 HyperQ-U 検査結果の活用 (2 回) 学級生活満足群 66.6% 要支援群 2 名	校内研究（道徳）の成果が学校生活のあらゆる場面で見られる。学校全体がしっとりと落ち着いた空気に包まれている。	◎
安全・安心な学校の整備	「学校施設の安全に関する項目」： 肯定的回答 90%以上	・日々の施設点検の徹底 ・創立 40 周年レガシー堅持 ・花があふれる環境づくり	92%の肯定的評価 サッカー・バスケットボールのゴールを新しく設置 理科栽培委員会児童とボランティアによる花いっぱい運動 登校時の保護者見守りの継続	児童の安全・安心を最優先に環境を整えてきた。引き取り訓練・交通安全教室等を従来通り実施できたことが安心につながった。	○

重点的な取組事項－ 3		保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。				
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果		コメント・課題	達成度
保護者や地域との連携を図り、共に児童を育む教育活動を充実する。		学校評価アンケート「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	肯定的評価 保護者連携 89% 地域連携 86%		制約のある中ではあるが、参観の場を多く設定することに努めた。	△
B 目標実現に向けた取組み						
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果	コメント・課題	達成度

保護者との共育体制の確立	学校公開参観率 85%以上 学校行事参観率 95%以上 登下校見守り参加率 90%以上	・授業公開・学校行事の内容の充実、参観率の向上 ・通信・HP・学校メール等による情報発信の充実 ・登下校見守りによる双方向の情報共有	参観率 運動会や学習発表会 98% 年間10回の授業参観 70% 学校評価アンケート回収率 95% 学校メール登録率 100% 見守りへの参加率 80%	児童の活躍する姿を見たい保護者は多く、学校行事への参観率が高い。授業参観と保護者会への参観率を上げることが課題である。	◎
「開かれた学校づくり協議会」を中心とした地域との連携強化	「家庭や地域との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	・創立43周年の歩みの共有 ・協議会活動内容の情報発信 ・地域人材の新規発掘及び連携強化 ・避難所開設・運営における協力体制の強化	「開かれた学校づくり協議会を中心とした地域との連携」 肯定的評価 86% 昨年度比 + 2% 一昨年度比 - 10%	昨年度よりは会議を多く開催することができた。学習発表会・校内研究発表会へ招待し、学校の様子をお知らせするにとどまった。	△
子供の夢を育む周辺教育施設との連携強化	「幼保小中高との連携に関する項目」：肯定的回答 90%以上	・こども園・保育園との日常的交流の充実 ・小中連携の強化（学びのスタイルや自学の統一） ・足立東高との連携の再興（吹奏楽・陸上・挨拶等）	園との交流は可能な範囲で実施 教員間の情報交換は密に実施 小中連携は4回とも実施 分科会をリモートで実施 足立東高との連携は中止	従来のような連携は実施できていない。小中連携は3年ぶりに全校が研究授業実施。統一された学びのスタイルへのステップを踏む。	△

6 まとめ

（１）今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

ア 学力向上アクションプランについて

【課題①】・全学年国語において通過率が80.4%であり、全学年算数の通過率89.5%と差が出た。2教科平均は84.9%である。「書くこと」の領域で区平均を大きく下回る結果となった。

【対策①】・授業ごとに「振り返り」を書くことを始め、意図的に「書く活動」を組み込み、書くことに慣れさせていく。

・読書環境を整え、多読を推進する。新しい文章を読み解くことに怯まない児童に鍛えていく。

・「読む」「書く」「話し合う」がふんだんにある授業を展開し、「読解力」「思考力」「表現力」を高めていく。

【課題②】・第5学年算数においては算数通過率が89.1%であった。昨年度（第4学年時）通過率は98.0%であり、習得につまずきが見られる単元がある。

- 【対策②】・多くの児童が難しさを覚える「割合」「通分・約分」の学習において、つまづきを早急に解消させ習熟を図る。
- ・個別指導では、児童により苦手な領域が異なるため、学力ポートフォリオを活用するなど、より個に応じた指導を徹底する。
 - ・AIドリルやeライブラリなどの学習ツールを活用して、学習内容の習熟を図る。

イ 重点的な取組事項—1 児童の学力向上を図る。

- 【成果】・学習意欲の向上（分かりたい・できるようになりたい・やればできるようになる） ・話し合い活動の充実
- ・家庭学習の習慣化・自学ノートの定着（自らすすんで学ぼうとする姿勢） ・ICT機器の活用
- 【課題】・基礎基本の定着における個人差が依然として大きい。花丸教室・そだち指導等の個別指導によるサポートが必須。
- ・自ら課題を見つけ解決していく力はまだ不十分な児童が多い。「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努める。

ウ 重点的な取組事項—2 児童が安心して学べる教育環境を整える。

- 【成果】・コロナ禍でも工夫を凝らした学校行事を創出（全校児童による運動会の実施・縦割り班活動の復活）
- ・居場所のある集団づくりを展開（HyperQ-U検査に見られる学級経営の充実） ・いじめ解決率100%・不登校0名（1/16現在）
- 【課題】・「学校でしかできない学び」と「家庭において個で取り組める学び」をバランスよく組み合わせる学びを推進する。
- ・人とのかかわる活動をさらに復活させていく。特に異学年の交流・異校種との交流を復活させていく。

エ 重点的な取組事項—3 保護者や地域と共に児童を育む学校づくりを進める。

- 【成果】・1人1台タブレットの順調な活用状況 ・Web回答の定着（欠席連絡・学校評価アンケート）
- ・情報発信の充実（学校だより・学校メール・ホームページ等）
- 【課題】・一堂に会しての交流機会の大幅減少（やはり実際に会うことの大切さを実感）
- ・交流機会の減少を凌駕できるネットワークの構築

（2）保護者や地域へのメッセージ

令和4年度も多大なるご理解とご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。コロナ禍における教育活動を展開せざるを得ない一年間ではありましたが、少しずつ日常を取り戻せつつあるのかなと思える年度末です。今年度は、3年ぶりに全校児童揃っての運動会を開催できました。保護者の皆様・地域の皆様に大好評でした。学習発表会・縦割り班活動・校外学習等、少しずつ人とのかかわる活動や体験活動も復活してきました。本校の児童にとって、人とのかかわる活動はなくてはならない活動です。それを通して、優しさやたくましさ等、人として大切な心を育んできました。母校や地域を愛する心ももちろんのことです。令和5年度は、今年度以上に中川東小学校の教育活動をダイナミックに展開していけることを念じております。

（3）その他（学校教育活動全般について）

コロナ禍における教育活動も3年間となりました。制限を強いられる中でも、子供たちが明るく元気に伸びやかに成長している様子は、私たち学校関係者にとっても保護者の皆様方にとっても大きな励みとなることでしょう。中川東小学校で教育活動を展開するにあたって特に配慮したのは、子供たちの心のありどころです。この活動で子供たちはワクワクするだろうか、明日も学校に来たくてたまらないだろうか…そのようなことを全教職員が心に秘めながら、授業を行事を創り上げていきました。子供たちの学習に真面目にコツコツ取り組む姿勢が全校的な学力向上につながり、落ち着いた学校生活が展開されています。継続がすべてです。一つ一つの教育活動をさらに徹底させることで、教育効果を上げていきたいと考えています。